

《担当者名》教授/泉 剛

教授/柳川 芳毅 教授/飯塚 健治 准教授/大橋 敦子 准教授/町田 拓自 講師/鹿内 浩樹 講師/水野 夏実

【概要】

様々な実験機器についてその原理や使用方法を学ぶとともに、原著論文の抄読を中心とした演習を通じて、英文読解力、データ一読解力、考察力、知識応用力を高めることを目的とする。

【学修目標】

- ・医薬品の毒性発現に関する文献を抄読しながら新薬開発と薬害問題の現状について学び、毒理学分野における倫理的問題の重要性を理解する。
- ・新薬に関する最新の論文を抄読することによって、新しい概念に基づく医薬品開発の可能性について考察し、薬物療法の将来像を提案することができる。
- ・近年注目を集めている生理活性物質に関する最近の文献を抄読し、これらの物質の生体に対する影響およびその作用機序に関する知識を修得することで、新規生活習慣病治療薬開発への可能性について考察する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 7	精神神経疾患に対する治療薬の作用機序と新薬開発について	精神神経疾患の病態とそれに対する治療薬の作用機序を説明することができる。また、精神疾患の動物モデルを用いた新薬開発・研究の方法並びに現状について、最新の文献に基づいて説明することができる。	泉 剛 大橋 敦子 鹿内 浩樹
8 ) 11	炎症・免疫・アレルギー疾患の病態とそれに基づく医薬品開発	炎症性疾患、自己免疫疾患、アレルギー性疾患の病態メカニズムについて、最新の文献をもとに理解し、新規の作用機序をもつ新しい概念に基づく医薬品開発について提案することができる。また、その際に考えられる副作用などの問題点についてあわせて考察することができる。	柳川 芳毅 水野 夏実
12 ) 15	心血管系、消化器系における各種実験系の実際と、文献的考察	培養細胞を用いた各種実験 (in vitro) において、生化学あるいは分子生物学的な手技を用いて行う測定の手法について説明することができる。また動物を用いた実験 (in vivo) について、目的・意義や注意点を説明することが出来、指導監督の下で簡単な手技を行うことができる。	飯塚 健治 町田 拓自

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度・授業中の質疑応答（90%）、レポート（10%）により評価する。

【実務経験】

泉 剛(医師)、柳川 芳毅(製薬企業において創薬研究に従事)、飯塚 健治(医師)、町田 拓自(薬剤師)、大橋 敦子(獣医師)、水野 夏実(薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、獣医師、薬剤師としての実務経験を活かし、実践的な教育を行う。創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。